

日本だからこそその「平和」への提言と 未来につながる万博の開催を

ロシアがウクライナに侵攻を開始して1年半が過ぎました。いまだに和平への道が見えて来ない状況は、世界に暗い影を落とし続けています。世界のリーダーたちは、きちんとプーチン大統領の考えを聞いた上で、終戦に向けての話し合いをすべきです。

そして日本は、戦後76年間平和憲法の下で平和を維持してきたことを、今こそ伝え、平和の大切さを世界に訴えるべきではないでしょうか。以前にお話したように、世界はこの戦争で食糧やエネルギーの安全保障の危機的な状況を迎えています。

岸田総理は、エネルギーの確保に向けて急遽、サウジアラビア、UAE、カタールなど中東に赴きました。それはそれで良いのですが、外交というのは常日頃の付き合いが大切です。

困ったときだけではなく、平和を訴えながら、恒常的に日本国民が安心・安全にエネルギーや食糧等を享受できるよう、外交力を駆使して世界をめぐり、日本の安全保障の確保をしていただきたいと思います。平和憲法を掲げる日本だからこそ、外交力というのは最強の抑止力になるはずです。

新型コロナウイルスも、2023年5月に5類に変更され、6～7月には海外から190～200万人の観光客が来日しました。

私は、21世紀は文化の時代だと思います。

世界の人々に日本を訪れていただき、日本人も世界をめぐり、文化交流が促進される中で日本の存在感がアピールされていくことを願って止みません。

2025年には大阪・関西万博が開催されます。1970年の大阪万博には6200万人の海外からの来場者がありました。2025年には万博の来場者が2000万人、総数で8000万人という来日観光客が見込まれているといえます。

日本という国が、いかに安心して安全な国であるかということをアピールしながら、ぜひ世界の人々と交流できたらと思います。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。50年後、100年後の人類に貢献できる新しい技術や創造をぜひ数多く見たいと思います。

本誌主幹

大中昔一